

公表：令和3年3月23日

事業所名 こどもプラス川越新河岸教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	パーテーション等の仕切りを使い、空間を分け、時間帯や児童に合った支援をしている。	適切な空間を提供している。
	②	職員の配置数は適切である	9	0	児童の人数やメンバーによって、職員の配置数を決めて適切に運用している。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	1	絵カードを用いて分かりやすく、パーテーションを利用することで構造化を実現させている。また、事業所内に段差を作らない等の工夫をしています。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	0	毎時2回の換気・空気清浄機と加湿器を24時間稼働し温度・湿度ともに一定を保っている。1日1回、業務用空間消毒器にて、空間消毒も実施し、感染症予防も徹底している。	コロナ、花粉対策を強化中
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	2	児童発達管理責任者を筆頭に、職員全員で意見を出し合い、一人ひとりの支援に参加している。	PDCAサイクルは、職員共通の連絡帳・個別連絡事項ノードにて毎日周知し、職員全員が参加している。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1	年に1度のアンケートを実施し、ホームページ上にて、公開している。保護者と連絡を密に取り合い、業務改善につなげている。保護者の意見を受け止め、業務改善の見直しや意向の把握につとめ、保護者と連携し、より良い支援を計画している。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	2	自己評価や評価表は、年に1度のアンケートを実施し、こどもプラス川越新河岸教室のホームページで公開している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4	他事業所や相談員との会議や話し合いの中で、取り入れることのできる改善点を取り入れています。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	全職員研修修了を目指し、機会を確保している。強度行動障害支援者養成研修やこどもプラス本部の運動保育士・感染症対策等の研修に参加している。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	1	日々の児童の様子を記録し、児童発達管理責任者が分析し、計画書を作成している	定期的な面談を実施し、児童・保護者等のニーズを聞き取り、分析した上で作成している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	ヒヤリングでアセスメントを行っている	
	⑫	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	1	計画書は、児童発達管理責任者が分析し、作成している。本人・保護者の意向も考慮し、納得した上で完成させている。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	2	児童発達管理責任者が作成した計画書の支援が実行できるよう、全職員が日々の記録に関わり、児童の課題を理解した上で業務にあっている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	3	運動プログラムのみならず、レクリエーションも充実できるよう、職員間協力して立案している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	毎月作成された柳沢運動プログラムを採用し楽しく効果的に身体を動かしている	運動プログラムのみならず、レクリエーションも充実できるように、職員間協力して工夫している。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	4	1	児童発達管理責任者が、児童の状況を考え、適宜分析し、定期的に変更や追加を加え作成している。	関わる全ての職員が個別支援計画書に基づいた体系化した支援を目指す。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	2	出勤時に必ず職員全員に個別で声をかけ、当日の業務内容を理解したのち、業務にあっている。入念な打ち合わせと職員間連絡帳にて情報を共有している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2	気づいた点は、当日中に児童発達管理責任者へ報告し、記録を取っている。必要があれば、保護者にも連絡している。	全職員が利用者の特性を理解した支援を目指す。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	毎日、児童の様子を記録し、周知、職員全体で観察できるようにしている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	1	児童発達管理責任者が毎月モニタリングを行い、定期的に計画の見直しを実施している。	
関係機関や保護者との連携関係	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1	担当者が出席できるよう、日程調整を行っている。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	1	関係機関からの問い合わせも多く、連携している	
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	2	対象児童はいないが、緊急時の対応も含め、主治医を把握している。	
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	2	対象児童はいないが、緊急時の対応も含め、主治医を把握し、すぐに連携できる体制を整えている。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	保護者からはもちろん、各施設から電話での連絡や書面により、迅速かつ適切な情報共有を行っている。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2	保護者からはもちろん、各施設から電話での連絡や書面により、迅速かつ適切な情報共有を行っている。	

	⑰	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	専門機関からの問い合わせも多く、情報共有等連携し、支援を行っている。場合によっては、担当者会議にも出席している。	
	⑱	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	5	定期的に健常者のいる公園へ、徒歩で行く事もあれば、車で遠くに遠足し交流する機会もある。	
	⑲	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	5	2020年度は開催がなかった。	コロナ禍で開催なし
	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	日頃の様子は、保護者との連絡帳にてやり取りしている。定期的な面談も実施し、共通理解を深めている。	
	㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	5	定期面談時はもちろん、家族に対しても密に連絡を取り合い、支援を行っている。	定期面談時は、家族に対しても支援方法や助言を行っている。希望があれば、6か月に1度の定期面談だけではなく、面談頻度も考慮していく方が望ましいと考える。
	㉒	運営規定・利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	1	契約時、不都合な点がないか入念に確認し、利用して頂いている。	
	㉓	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容とこれに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画書の同意を得ているか。	6	1	保護者と連絡を密に取り合い双方納得の上で、計画書を完成させている。	支援計画書は、児童発達支援管理責任者が作成し、保護者が理解をした上で、印鑑を受領してから支援を実施している。
	㉔	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	定期面談の他、不安なことがあれば、随時連絡を取り合い、助言をしている。	
	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6	同学校や施設から利用している児童もおり、必要に応じ保護者間の連携が取れるよう都度情報共有を行い連携の支援をしている。	
	㉖	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	相談事や気になることに関しては、密に連絡を取り合い当日中の解決を目指し、迅速に対応している。	
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	3	こどもプラス独自の広報誌も発行し、保護者に対し、発信もしている。利用時の連絡体制は、教室に来るたびに保護者と連絡帳でやりとりしている。活動の写真等も毎回掲載し、発信している。	
	㉘	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	個人情報を取り扱う書庫には、鍵がかかっている。不要な個人情報が記載されている書類は、シュレッダー等で裁断処理している。データ等持ち出しを禁じている。	
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	年齢や障害の重さにより、言葉の理解が難しい児童は、絵などで対応することもある。保護者とは言葉だけではなく、文章でやりとりしている。	
	㊳	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	近隣の大きな公園にて、地域の方と交流することもある。	現在、対外的な大きなイベントは開いていないが、公園等で交流を図っている。
非常時等の対応	㉚	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	2	全てのマニュアルをいつでも見れるよう保管している。 また、避難訓練も定期的に行っている。	
	㉛	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1	消防へ報告している。避難訓練を実施する際は、避難後に公園等で遊ぶため、児童にとっても楽しめるイベントになっている。	年2回以上の防災訓練の実施。近くの避難所に避難をしている。精度の高い訓練を目指し、イベントとして児童も参加している。
	㉜	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	新規児童や状況に変化のあった児童の情報は、出勤時に各自が確認し主治医も把握している。全職員、共通の連絡帳や打ち合わせ時に情報共有し、児童の状況を把握している。	
	㉝	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	新規児童や状況に変化のあった児童の情報は、出勤時に各自が確認し主治医も把握している。全職員、共通の連絡帳や打ち合わせ時に情報共有し、児童の状況を把握している。	
	㉞	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	事業所内だけでなく、内容によっては他事業所への情報共有も行い、都度改善内容を事業所内で共有している。	過去のヒヤリハットも適宜読み返し・共有を行い、事故に対する意識を上げていきます。
	㉟	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1	疑いの段階で児童相談所へ相談して早期の解決を図っている。	虐待の疑いがある場合は児童相談所へ相談して、慎重な対応を心掛けている。
	㊴	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	3	保護者から了承を得た上で、組織決定し個別支援計画に加える。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。